

どくとくのひろば

教科書特集号

No.
37

特集1 特別対談

自分の「好き」を大切に、
そして多様性に満ちた世界へ

[島 恒生、今 日和] 2

特集2

令和7年度版『中学道德 あすを生きる』
ってどんな教科書? 6

見てわかる! 道德

「個性の伸長」(小学校)
「向上心、個性の伸長」(中学校)
「相互理解、寛容」

[越智 貢、奥田 秀巳、上村 崇] 12

実践事例【小学校5年】

児童が本音を語り合い、
受け止め合える道德科をめざして

[木村 さやか、本田 正道] 14

こんなコト、聞いてみました!

板書のこだわりや工夫を
教えてください

[木村 純也] 18

地球の仲間からのメッセージ

群れる

[長瀬 健二郎] 19



日文的 Web サイト
新版教科書情報



日文 🔍



心が動く、その先へ。

日本文教出版

自分の「好き」を大切に、 そして多様性に満ちた世界へ

畿央大学大学院教授

しまつねお
島 恒生

日本文教出版「小学道徳 生きる力」「中学道徳 あすを生きる」監修者の一人。全国の小学校や中学校、教育委員会などでの研修会講師を務める。



女子相撲の
トップアスリート

こんひより
今 日和

青森県出身。数々の大会で好成績を残す傍ら、国際相撲連盟の選手委員も務め、相撲を世界に広めようと活動している。



「自信をもつこと」「多様性」をコンセプトとして編集された令和7年度版『中学道徳 あすを生きる』では、さまざまな生き方を選択した人たちについて教材で取り上げています。その一人である今 日和さんに、島 恒生先生がお話を伺いました。



令和7年度版『中学道徳 あすを生きる』3年
「1 相撲を世界に」
内容項目：A「希望と勇気、克己と強い意志」

世界への道のりと気づき

島／世界選手権での準優勝など輝かしい経歴をおもちですが、相撲を始めたきっかけは何ですか？
今／私の生まれた青森県の鱒ヶ沢町はそこに住む小学生がみんな相撲をしているというぐらい、相撲が盛んな町なんです。そんな環境の中、私も兄と一緒に連

れていかれて自然と始めていましたね。吹雪の中を3時間ぐらいかけて帰らなければいけない状況で、親が迎えに来てくれるまで道場で稽古をしているしかないというもありました。

島／そこから、中学、高校とどのような思いで相撲を続けてこられたのでしょうか？

今／道場では小学生であろうと、容赦なく厳しい稽古が続いて嫌になることもありましたが、徐々に楽しくなってきました。それに、兄が持って帰ってくる優勝旗に憧れて、自分も欲しいなと思いながら稽古していましたね。中学校には相撲部があって、そちらに所属していましたが、女子は私が1年生のときに3年生の先輩が1人だけ。男女混合だった大会も女子だけの大会になり、年1、2回しかないという状況になってしまいました。ただ、中学生からは世界選手権のジュニア部門に出場できるので、そちらが目標となっていました。

島／小・中学生のときから世界に憧れていた？

今／そうですね。ずっと海外に出るのが夢で、相撲を続けていたというのはあります。中学3年生のときに世界ジュニアの代表選考会までは進めたんですが落選してしまっただけで、当選した人が同じ年齢だったので、悔しい気持ちが湧いてきました。そして2014年、高校2年生のときに台湾で行われた世界ジュニア選手権に初めて出ることができ、そこで初出場・初優勝、

しかも団体も個人も全勝という素晴らしい結果となりました。世界を視野に入れていたこともあり、ずっと英語を頑張って勉強していたので、海外の選手たちとのコミュニケーションをとることができたのも楽しかったんです。同時に、遠征費が高くなるから来年は行けない、という話を聞いて、本人がやりたいのにほかの要因でやれないということがすごく悲しいと思いました。そこから、どうしたらその状況を変えられるんだろう、と考えるようになり、「メジャーなスポーツとして認められるためにも、相撲をオリンピック競技にしたい」と思うようになったんです。

島／世界を勝負の場にすることで、見えてくるものがあつたんですね。しかし、困難も多かったのでは？

今／世界という舞台では、自分が勝てると思えないような立派な先輩方ですら、海外の選手に赤子の手をひねるように負ける姿も見えてきました。だから、世界で上を狙うのは難しいと思っていました。でも、先輩方やコーチが世界一をめざして本気で稽古している熱意に引っ張られるように、私も世界一をめざすようになり、2014年の世界ジュニア選手権での初優勝につながりました。2015年の2連覇がかかったジュニアの大会でも優勝できたし、大学に入って一般部門に移ってから初めて出られた2018年の大会でも準優勝できました。世界で2位になることができ、自分の実力を実感すると同時に、これまでやってきたこ

とは間違っていないと思えたんです。

島／2018年の決勝戦、動画で拝見しました。あれは勝っていた試合なのではと思うのですが、やはり世界は強かったですか？

今／あと一歩だったと思うんですが、その一歩が計り知れないところがあって……。世界のあと一枚の壁は、本当にすごく厚いと思います。

先人への感謝と恩返し

島／相撲を続けるにあたって、周囲とのつながりや環境も大切だと思いますが、いかがですか？

今／女性が相撲を続けていくには、まず練習相手に困るんですが、後輩の男子選手が協力してくれたり、引退した先輩方が声をかけてくれたりして、とても助かるしありがたいんです。練習でも、大会でも、長く苦しい環境で続けなければいけない場面が多々あるんですが、私が表彰台に上がったのも、ただひたすらに情熱だけで道を切り開いてくれた先輩方がいるからだと思っています。感謝をしているのはもちろん、今後一生をかけて恩返ししていきたいと思っています。

島／先輩から受け継がれたものが、今さんの活躍の土台をつくっているんですね。その輪はどんどん広がっているのではないですか？

今／私が最近力を入れていたのが、女性が社会人と



なってからも相撲を続けられる環境づくりです。まずは自分が実業団選手というかたちで続けました。最近では、仕事をしながら地域のクラブに通って続けるという人が増えたんですよ。コロナ禍により学生時代の活動が不完全燃焼で終わってしまったことも一つの要因だとは思いますが、女子相撲の歴史が変わってきていると思っています。

島／それは今さんが変えたんだと思いますよ。諸先輩方が戦う姿や、それを受け継いだ今さんが行動する姿を見て、女子相撲や社会が変わってきたのではないのでしょうか？

今／社会が変わってきたということであれば、女子の大会が増えたことが挙げられますね。なかでも、女子のわんぱく相撲が増えました。大会の開催はただでさえ大変なのに、その地域の方々が女子も同じ機会がもてるようにと開催しています。相撲を競技としてやっていなかった人も、理解して動いてくれているのがうれしいですね。

島／男子だけというところから、どんどん理解者が増えての結果ですね。それも、今さんが困難を乗り越えてきたからでしょう。相撲を始めてから現在まで、どんな苦労がありましたか？

今／小学生ぐらいまでは地域の道場やクラブなどで男子と一緒にやっていたとしても、思春期に入る中学生ぐらいからは女子が相撲をやっていることをばかにされることもあったりして、辞めていく選手も増えてきます。その結果、所属している女性が自分だけという状況になり、女性ならではの悩みを話すこともできず一人で抱えてしまうことになります。高校、大学になっ

てくると、女子を受け入れてくれる環境が両手で数えられるぐらいなんです。学校を卒業した後は、一人ひとりが自分で売り込んでいかなければ相撲で生きていくことができないのが実情です。土俵以外での戦いが本当に多いと感じています。

島／そんな状況のなか、ここまで突き進んでこられた原動力は何だと思えますか？

今／私はとても恵まれた環境にいると自覚していますが、それについて社会的にいろいろ言われることも多かったです。そんなとき原動力になったのが、子どもに相撲を教えたらすごく喜んでくれたこと。保護者の方々も、子どもがこんなに楽しそうに力いっぱいぶつかっていくのを初めて見たと笑顔で話してくれます。自分の相撲で人が喜んでくれるというのがすごくうれしいんです。私は相撲をメジャーなものにしていきたい。そのためなら、外野からちょっとやそっと何かを言われたぐらいでは負けたくないと思います。自分がこれまでやってきたことを何も知らない人に否定されるのも、傷ついたからといって歩みを止めることもばからしいなど。そこはもう意地ですね。

島／意地ですか。それだけではないですよね。自分は駄目だと思ったり、周りを気にしすぎてしまったりする中学生は多いんですが、今さんの場合は違いますよね。なぜネガティブな考え方にならないのでしょうか？

今／確かにネガティブにはならないですね。相撲を始めた頃から道場の先生にずっと言われていたのが、「相撲が強くなるかどうかはとりあえず置いておけ。まずは相手に感謝する気持ちをもってほしい。」というこ

とです。何にでも感謝することと、相手を尊重することは徹底的に教えてもらいました。それは、相手に対してもだけど、自分のためにもなるんです。好きなことやこれまでの経験などにもリスペクトをもって、自分なりの道を進んでいかないと、教えてくれた人に失礼だなと思っています。

島／小さい頃からの教えなんですね。不安になるということはないんですか？

今／我が家の教育方針として「足るを知る」というのがありました。例えば不安で眠れない夜があっても、「雨風がしのげていて、安心して横になっていられるこの環境はとても恵まれているじゃないか。」と考えて、感謝することを大切にするんです。

島／今さんはそんなふうで育ってきたんですね。海外の選手たちはどんなことを考えているのでしょうか？

今／彼女たちは自分自身をしっかりともっていて、好きなものを好きとちゃんとと言えるんです。「私は相撲が好きだよ、あなたは違うの？」と。実は、私は思春期の頃、相撲が好きと考えたことがなかったんです。女子で相撲に打ち込んでいる姿が誇らしいと思えなかったんでしょうね。海外の選手たちを見習って、自分の好きなことは好きと言える自分でありたいと思います。

相撲と自分自身の未来を見つめて

島／2024年の4月から、JICAの青年海外協力隊として相撲を教えるためにアルゼンチンへ旅立つのですが、志望動機を教えてください。

今／相撲はまわしだけで、なんならまわしなしでも成り立つ競技で、お金をかけずにやれるスポーツなんです。



今日和さんから中学生へのメッセージ

困難にあたったときには、なぜできないのかを、冷静になっていろいろな要因から考えてみてください。ちっぽけなことに悩まされて、足止めされている状況がばかばかしいと思えてきませんか。こんな状況はもう嫌だ、自分を変えたいと思う瞬間がきっとやってきます。そのときはその決断に自信をもって自分らしく突き進んでほしいです。あなたの人生はあなたのものなので、自由に好きに生きてほしいというのが私の願いです。



す。だからこそ、自らの努力ひとつで人生を変えていけると思っています。それを特に経済的に厳しい状況にある人たちに紹介することで、その人たちが人生を切り開いてくれれば、私の人生、笑って終われると思っています。現地では相撲をいろいろな人知ってもらい、「相撲で心身を鍛えた青年を育てたい。」というアルゼンチン相撲連盟の目標のもと活動します。道場で一緒に稽古するとともに、イベントなどを通して女性と子どもに相撲を広めていく予定です。

島／ジュニア世界一になった今さんが来てくれるなんて、楽しみでしょうね。その後の夢はありますか？

今／相撲をオリンピック競技にしたいとずっと思っています。これまでも地道に活動してきましたが、よりダイレクトに関わることができるようにしたいです。私の生きているうちにオリンピック競技になってくれるとうれしいですね。



新教材「相撲を世界に」活用のために島恒生先生からのアドバイス

私たちは、困難や失敗に出会うとマイナス思考になり、視線が自分の内にだけ向いて視野が狭くなってしまいがちです。今さんは、つながりや感謝、世界、未来……と視線をどんどん外に向け、自らの可能性を引き出しています。今さんの明るく前向きなプラス思考はその原動力なのでしょう。確かに、「お陰様で生きている。」「失敗しても何とかなる。」と考えると、自分自身の弱さに打ち克つてそうです。

授業では、新教材を通して今さんの生き方を考えながら、困難や失敗を乗り越える原動力となるものを生徒が自分の言葉で伝え合い、みんなで発見や納得をしたいですね。

『中学道徳 あすを生きる』 ってどんな教科書？



新しくなった『中学道徳 あすを生きる』は、
「**自信をもつこと**」「**多様性**」を大切にした、
すべての生徒と先生に寄り添う教科書です。
その特色とポイントをダイジェストで解説します。

それぞれの詳細は
内容解説資料を
チェック！



特色1 いじめに正面から向き合う

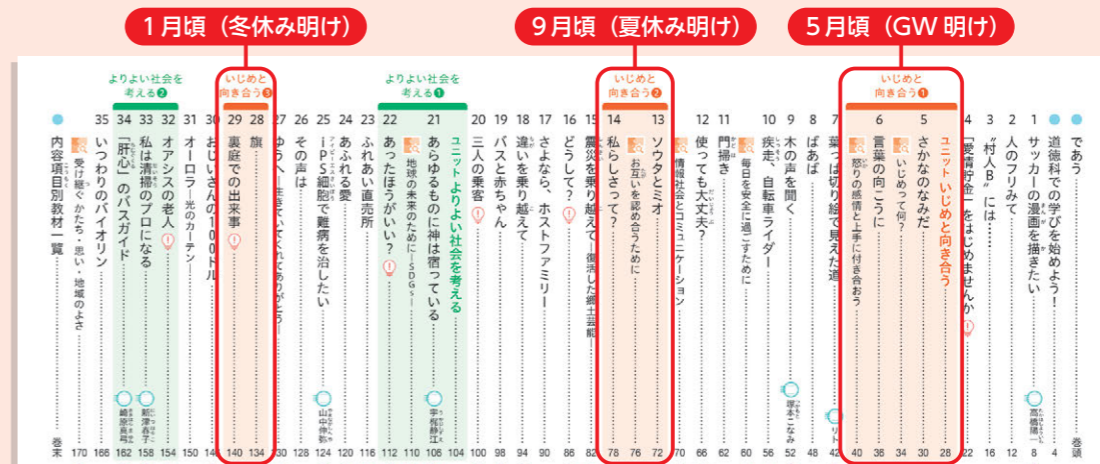
特色2 多様性に富むよりよい社会へ

特色3 進化した『道徳ノート』

- 注目ポイント① 充実のオリエンテーション…………… 8
- 注目ポイント② 学びの流れが見える構成…………… 8
- 注目ポイント③ バリエーション豊かな教材…………… 9
- 注目ポイント④ 教科書 QR コンテンツ…………… 10
- 教師用指導書…………… 11



特色1 いじめに
正面から向き合う



詳細は
内容解説資料
p.6-9

特色2 多様性に富む
よりよい社会へ

これからのよりよい社会の担い手は、今を生きる子どもたち。**一人ひとりが自他に向き合い、多様性を尊重し合える**ように、新たな重点内容項目を設定して教材・コラムを開発しました。

新たな重点内容項目

向上心、個性の伸長

相互理解、寛容

- 自己肯定感
- 自己有用感
- 自分らしさ
- その人らしさ



SDGs に関わる
教材・コラムも
数多く掲載して
います。



1年 p.42 「7 葉っぱ切り絵で見た道」
(内容項目：A「向上心、個性の伸長」)

詳細は
内容解説資料
p.10-13

特色3 進化した
『道徳ノート』

教科書本冊には、別冊『道徳ノート』が付属しています。学校現場からの声に応じてさまざまな改善をしながら、**デジタル活用の幅も広げてパワーアップ**させ、**令和の日本型学校教育**に対応しました。



- 紙面の二次元コードから**デジタルノート**を開いて**端末上で入力**できる！
- 生徒が手書きした文字を**OCRサービス**でテキストデータ化し、**評価などに活用**できる！



詳細は
内容解説資料
p.14-17

注目ポイント ① 授業開き準備の手間なし！
充実のオリエンテーション

学びの見通しを立てるためのオリエンテーションページには、道徳科でどんなことを学ぶのが**漫画**で丁寧に示し、実際の授業をすぐに体験できる**ミニ教材**も新設しました。

例：1年の場合

道徳科での学びを始めよう！

ミニ教材を考えてみよう！

難しい宿題

詳細は 内容解説資料 p.20-21

注目ポイント ② シンプルかつわかりやすい！
学びの流れが見える構成

教材ページは、①**気づく**→②**考える・議論する・深める**→③**見つめる・生かす**の3ステップが可視化され、規則的でわかりやすい構成になっています。

ステップ③ 見つめる・生かす ステップ② 考える・議論する・深める ステップ① 気づく

16 どうして？

19 電車の中で

各学年6教材には、**問題解決的な学習**や**体験的な学習**の展開、学習補助のツール・資料などを掲載した「**学びを深めよう**」ページが付属します。

学びのキーワード

登場人物

考えてみよう

自分にナニ

詳細は 内容解説資料 p.22-25

注目ポイント ③ 生徒の心に必ず響く！
バリエーション豊かな教材

より平易に、より深く、より考えたいくなるよう熟考を重ねた教材は、毎時間の熱い議論と新たな学びを支えます。

モデル 井手上 漠

ラグビー日本代表 元主将 廣瀬 俊朗

医師 中村 哲

人物教材

時代を切り開いた先人たち、そして今を生きる人たちの多様な生き方、考え方を教材で取り上げました。独自取材によって新教材も多数開発しています。

漫画教材

文章の読解が苦手な生徒にも理解しやすい漫画教材は、**全学年に配置**しました。**現行教科書の読み物教材を漫画化**したものもあり、短くやさしい内容でもしっかり考えられる深い教材ばかりです。

3年 p.108 「19 電車の中で」

19 電車の中で

定番の題材を扱った教材

1年	5	さかなのなみだ	3年	3	あるレジ打ちの女性
	6	言葉の向こうに		5	違うだよ、健司
	17	さよなら、ホストファミリー		6	卒業文集最後の二行
	19	バスと赤ちゃん		7	命のトランジットビザ
	24	あふれる愛		13	稲むらの火
	25	iPS細胞で難病を治したい		15	ゴリラのまねをした彼女を好きになった
	28	旗		17	二通の手紙
	29	裏庭での出来事		20	失った笑顔を取り戻す
	33	私は清掃のプロになる		24	町内会デビュー
	35	いつわりのバイオリン		25	臓器提供
2年	10	時を越えて一椗野で生まれたきずな	26	独りを慎む	
	14	ヨシト	30	生きてこそ一石井筆子の生涯	
	15	ネット将棋	32	一冊のノート	
	16	樹齢七千年の杉			
	22	夜のくだもの屋			
	32	足袋の季節			

定番教材

新しい教材ばかりでなく、学校現場で長年親しまれてきた定番教材もやっぱり外せません。**約30教材**も掲載しているので、先生方も安心して授業ができます。**一部の教材は文字数を減らす**など、読解の難度を下げる工夫も凝らしました。

詳細は 内容解説資料 p.26-31

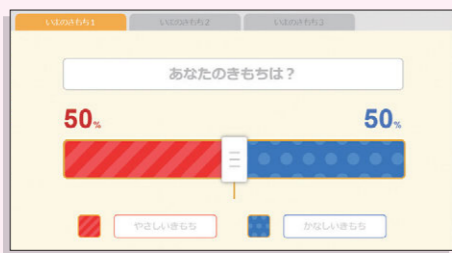
注目
ポイント
4

使える、深まる、盛り上がる！
教科書QRコンテンツ

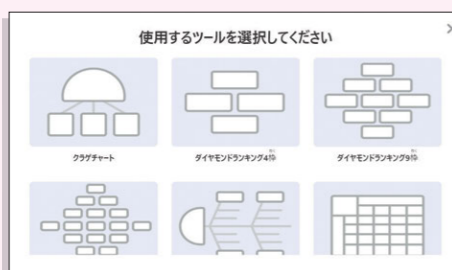
すぐに授業で使える教科書 QR コンテンツに、教科書本冊または道徳ノートの二次元コードからアクセス可能です。GIGA スクール時代の学びを支え、先生の授業準備の負担も軽減できます。

全教材に付属

心情メーター



シンキングツール

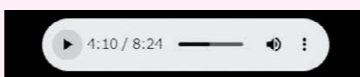


ワークシート



Word 形式と Google ドキュメント 形式の2種類を用意しています！

朗読音声



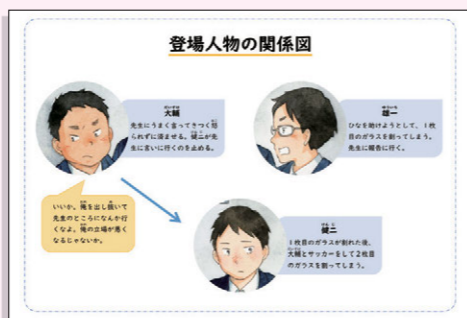
多数教材に付属

人物略歴



1年 p.124 「25 iPS細胞で難病を治したい」より

人物関係図



1年 p.140 「29 裏庭での出来事」より

外部リンク



1年 p.76 「お互いを認め合うために」より

動画



3年 p.60 「10 親友と語り合った『孤独の解消』」より

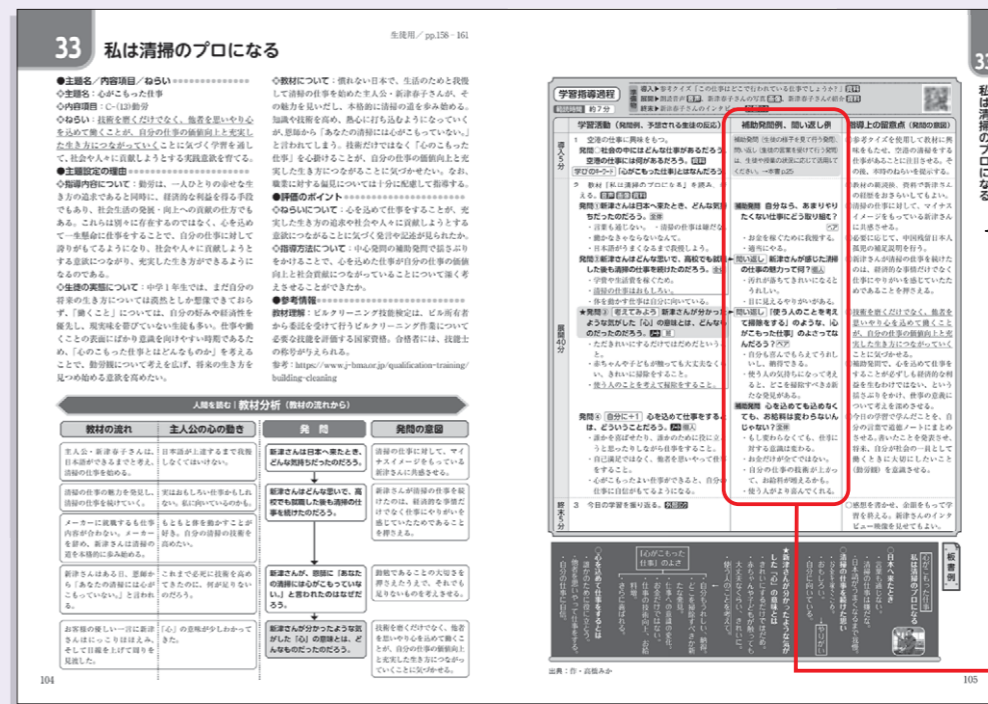
画像



2年 p.106 「21 行動する建築家 坂 茂」より

先生方の強い味方！！
教師用指導書

「知りたい・使える情報が短時間で読み取れ、実践できる！」
「新任からベテランの方まで、すべての先生に活用いただける！」
そんな指導書になることをめざし、改善を重ねてさらにパワーアップしました。



解説編

現行の指導書と同様、**一目で授業全体が見通せる1教材** 2ページ構成です。**現場の実践をもとに学習指導案を改善し、深い学びのある授業が実現できるようにしました。**

生徒の発言に応じて活用できる**補助発問例や問い返し例を提案！**

朱書編

教科書紙面の縮刷に沿って発問などを掲載し、**授業の展開をわかりやすく示しています。**忙しい先生方の**授業準備の負担を軽減し、スムーズに授業ができる構成です。**

朱書編はデジタル版もあります！

教師用指導書セット内容

1. 解説編
2. 朱書編
3. 朱書編デジタル版
4. 指導者用デジタル教科書（教材）
5. デジタルデータ集
6. OCRサービス

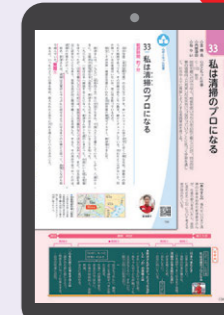
※ 1、2は紙媒体、3～6はクラウド配信で提供予定です。
※ 開発中のため、内容や構成は予告なく変更になる場合があります。

こちらの二次元コードから教科書 QR コンテンツを体験できます！ ※期間限定公開です。



詳細は
内容解説資料
p.34-35

詳細は
内容解説資料
p.40-43



道徳の学習における応用編です。基本となる22の内容項目は、それぞれ独立しているわけではありません。それらは密接に関わり合い、また競合する場合があります。ここでは、内容項目間の関係をわかりやすく解説し、道徳的価値の本質やおもしろさに迫ります。

今回のテーマ

「個性の伸長」(小学校)
「向上心、個性の伸長」(中学校)
「相互理解、寛容」

監修：広島大学名誉教授 越智 貢
共著：北海道教育大学准教授 奥田 秀巳
福山平成大学教授 上村 崇

個性と集団

私たちのそれぞれの個性が種々の集団の中で育まれてきたことは間違いありません。しかし、逆に、育まれるべき個性が集団の中で抑圧される場合もあるでしょう。このことを踏まえて、個性と集団との関係について考えることにしましょう。

個性の伸長と集団

家族や仲のよい友人の集まりは、私たちにとって最も身近な集団です。このような親密な人々との結びつきは、私たちに安らぎを与え、ありのままの自分を受け入れてくれるという安心感をもたらします。そして、その経験が、自分の存在に自信をもたせ、自分の個性を伸ばそうとする気持ちを後押しするのはいずれもありません。

無論、私たちは親密な集団だけに所属しているわけではありません。私たちは学校や会社といった、もっと大きい集団にも所属しています。これらは必ずしも親密な集団ではありませんが、集団内の人々と目標を達成するために協力し合う中で、ある人とは相互理解

が深まって親密になることもあれば、別の人の才能や努力に尊敬の念を抱き、自分自身の向上心がかき立てられることもあるでしょう。このように、家族や親しい友人の集まりとは違った集団でも個性の伸長が促されます。文化祭や運動会などの集団活動が、それぞれの力を発揮させ、それぞれの個性を伸ばすという報告は数え切れません。

個性の伸長と自由

しかし、すべてがそのような集団であるとは限りません。中には、個性を伸ばすどころか、ありのままの自分であることができず、その結果、集団から離脱する人々が生じる場合も見られます。運動部を退部したり、学校を転校したり、会社を辞めたりする人々の中には、一定数そのような人々が含まれています。

ありのままの自分ではいられなくさせる要因は何なのでしょう。ケースバイケースであるとしても、少なくともそこに何らかの自由が関わっているのは間違いありません。とりわけ重視すべきは表現の自由です。言いたいことが言えない状況は個性を押しつぶす最大の要因となるからです。

言いたいことが言えない状況など考えられないといぶかる人がいるかもしれません。そうした人は、マイノリティの人々、例えばLGBTQ+に関わる人々の多くが、長い間、本心を隠さざるを得なかった事実を想起すべきでしょう。ある時期まで、彼らがあるがままの自分の姿をカミングアウトできなかったことは、彼らから言いたいことを言う自由が奪われていたことを意味しています。ありのままの自分でいられるか否かが自由の有無と表裏の関係にあることを忘れてはなりません。

自由と寛容

加えて重要なのは、こうした状況に「寛容」の姿勢が深く関わっていることです。寛容とは、まさに相手の言いたいことを言う自由を守ることにはほかからいからず。

学習指導要領(小学3・4年)では、寛容を「自分と異なる意見も大切にすること」と説明しています。「大切にすること」は、高学年での「尊重する」の別表現です。つまり、寛容は個人の尊重に直結する働きであることが記されているのです。

そもそも、寛容は17世紀から18世紀にかけて、宗教上の必須の態度として注目されるに至った言葉です。信教の自由は、健全な社会においては必要不可欠であり、それを禁じたり抑圧したりすれば、必ず社会は混乱する。それゆえ、すべての人は宗教の違いに拘泥してはならない。それが寛容の当初の意味でした。こうした寛容を重視したのは、17世紀イギリスのJ.ロックや18世紀フランスのヴォルテールです。

「私は君の言うことには反対だが、君がそれを言う権利は命を懸けて守る。」この言葉はヴォルテールの思想を表現したものとして有名です。寛容は、このように、相手が誰であれ差別することなく、その人の発言する自由を守ろうとする態度です。寛容を、単なる思いやりや心優しい態度などと混同すべきではありません。

とすれば、寛容の姿勢が根付いた集団は決して同質的ではありません。むしろ、さまざまな属性の多様な人々が共生する集団です。そして、こうした集団こそが、今日世界の国々がめざしている多様性社会や包摂社会への道を開くものであることは、もはや強調するまでもないでしょう。

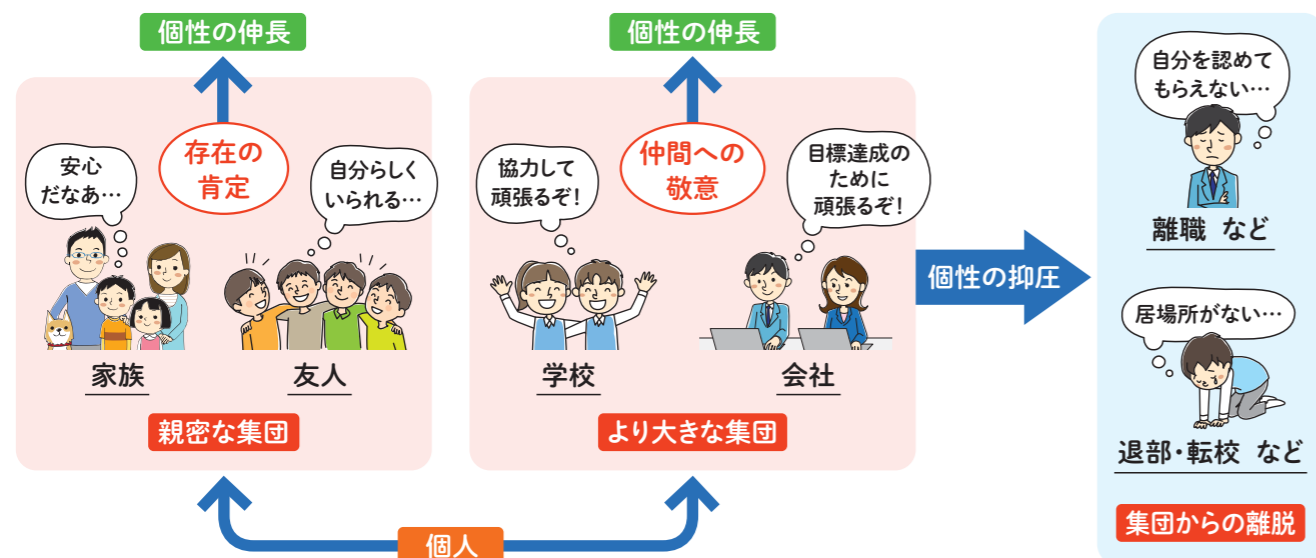


図1：集団における個性の伸長と離脱

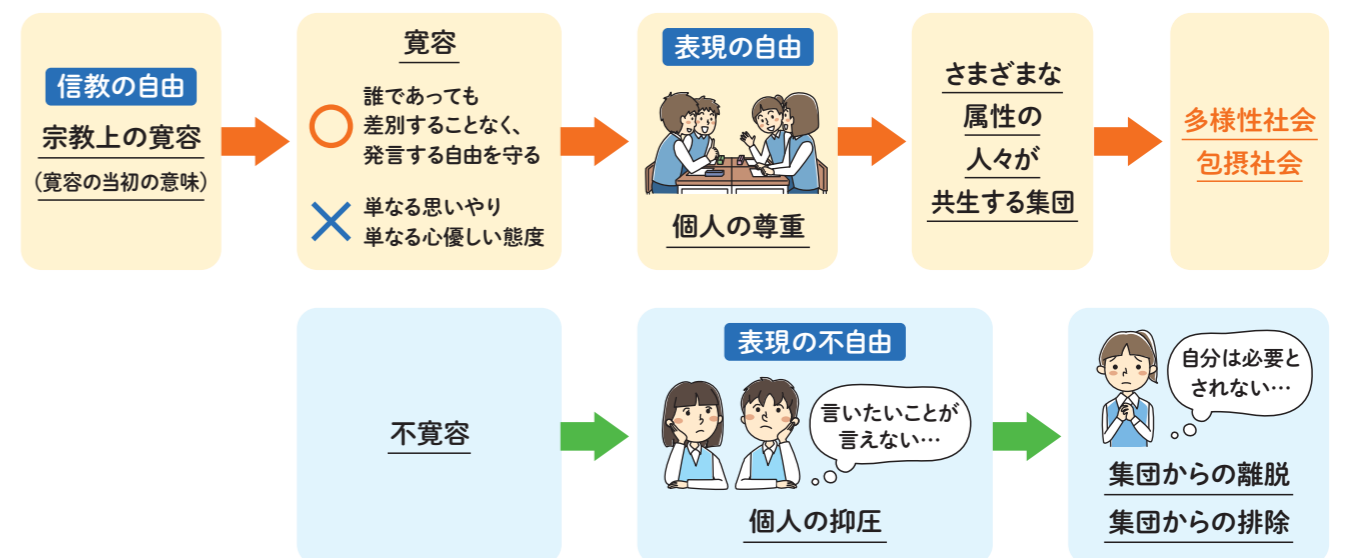


図2：個性を尊重する態度と寛容

児童が本音を語り合い、 受け止め合える道徳科をめざして

神奈川県横浜市立荏田東第一小学校教諭 木村 さやか



教材名 「友のしょうぞう画」(「小学道徳 生きる力 5」日本文教出版)

内容項目 B「友情、信頼」

主題名 真の友情

ねらい 相手を思いやり、互いの思いを伝え合い受け止め合うことの積み重ねが信頼を高めていくことに気づき、信頼し合える友情を築こうとする心情を育てる。

教材あらすじ 仲のよかった正一が病気をきっかけに引っ越し、しばらくは手紙のやりとりをしていたが、連絡が途絶えてしまう。1年後、正一の版画作品が展示されていることを知り……。

① はじめに

今回の学習で取り扱った内容項目は、B「友情、信頼」です。高学年では、「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと」(学習指導要領より)とあります。

高学年、特に5年生になると、友達との関わり方が大きく変わろうとする時期に入ります。これまでは、一緒に過ごして楽しかった、好きな遊びが同じなど、楽しさが共有できれば友達だと感じられていても、第二次性徴に差し掛かるとそれだけでは友達関係を築いていくことが難しくなります。自分が周囲からどのように見られているのが気になってしまったり、一緒に遊ぶ友達がいても、それは親友と呼べる相手なのかと不安になったりすることで悩み、時にはトラブルに発展することもあるのではないのでしょうか。

実際、本学級でも友達との関わり方に課題を感じている姿が多く見られます。児童にとっては苦しい時期なのだと思います。しかし、教師という立場から見ると、このような苦しい時期を体験することは、友達とのよりよい関わり方について自己を見つめる貴重な機会であると考えられます。今回の学習を通して、友達との関係性における大切な考え方を見つめ、今後の学校生活をより明るいものにするためのヒントになるようにと願いました。加えて、本実践だけでなく、毎週の道徳科の授業が児童にとって本音を語

り合ったり、相手の思いを受け止め合ったりできる時間となるよう実践を進めていきました。

② 道徳科の授業に向けての 事前の取り組み

本実践を行うにあたり、事前に今回の内容項目に関連した取り組みを行い、友達との関わり方でどのような課題があるかに気づくことが大切だと考えました。事前に課題を見いだすことで、道徳科の授業でも自分ごととして考えられるようになるからです。そのために、主に次の2つの取り組みを行いました。

(1) アンケートと校内人権週間との関連

校内では定期的に学校生活に関するアンケートを行い、その結果をもとに学級経営を見直したり、結果から見いだされた課題を解決するための活動を行ったりしています。本学級のアンケート結果と実際の様子から、「けんかになって関係が悪くなってしまおうほうが嫌だから、我慢してやり過ごそう。」「楽しいことは共有できているけれど、相手と違う考えを伝えることや相手のよくない行動に対する忠告はできていない。」と考えることがうかがえました。良好な関係を築くために相手の考えを受け入れることは大切ですが、アンケート結果を見る限りは、相手の考えをただ好意的に受け入れているわけではないようでした。

そこで、アンケート実施後の校内人権週間に、「上手な断り方を見つけよう」という授業を行いました。ここでは、実際の学校生活で起こり得る事例についてロールプレイを行い、自分の気持ちを我慢せずに、かつ相手とも良好な関係を保てるような関わり方を考えました。この授業の振り返りで、児童は、「自分だけでなく、相手にとっても本当によいことは何かを考えて断ったほうがよい。」「自分の立場や状況を相手にしっかり伝えることが大切。」と発言していました。

(2) 国語科の学習との関連と学級での共有

本校が使用する国語科の教科書に、1年間継続して取り組む事例として、日々のことを記録する活動が紹介されています。毎週の道徳科の授業に関連した内容

や、行事や学年・学級の各活動の振り返りなどを書くようにしていますが、今回は、「理想の友達関係とは」「友達との関わりで難しいと思うこと」をテーマに自分の考えを書くようにしました。そして、それぞれのテーマで児童が書いた文章からテキストマイニングを作成し、モジュールの時間に学級で共有しました。

「理想の友達関係とは」では、「馬が合う」「話し合える」「向き合える」関係であると考えていること、「友達との関わりで難しいと思うこと」では、「友達と考えが食い違う」「相手に本当のことを言いにくい」という課題があることを確認しました。そして、そのような課題が生じるのは、相手の欠点に注目してしまったり、どうせ相手が自分の考えを受け入れてくれないと思ったりするからではないかという考えを共有しました。

最後に、これまでに共有したことを振り返りながら、「理想の友達関係」「日頃心がけていること」「友達と関わるうえでの難しさ」についてタブレットでまとめ、学級の仲間がそれぞれどのように考えているのかを共有しました。このような活動を行うことで、各自が友達との関わり方にどのような課題があるのか気づけるようにしました。

③ 道徳科の授業での工夫と 実際の児童の様子

事前の取り組みから、友達とうまく関係が築けないのは、相手に問題があるからだと考えている様子がかげました。自分自身は気を使っている、相手が自分の思いを受け入れようとしてくれない、または、これまで気づかなかった相手の欠点が原因なのだと考えているように感じました。そこで、今回の授業では、「自分はこれまで友達と向き合ってきたつもりだったけれど、相手が本当はどんな思いなのかを想像することが足りなかったこと」「どうせ言っても受け入

れてもらえないと決めつけて、自分の思いを伝えるのを諦めてしまうことがあること」に気づけるようにしたいと考えました。

(1) 導入からねらいとする価値の把握までの 発問の構成

導入では、事前に共有したテキストマイニングを掲示し、それを見ながら、友達との関わり方で感じる難しさは何かを問いました。そして、その原因が自分自身にあるのではなく、相手が自分を受け入れてくれないからではないかと考えていることも確かめました。そこから、自分が理想とする友達関係に近づくために何が足りないのかを考えていくこととし、学習課題を「理想の友達関係に近づくために大切な考えとは」としました。

ねらいとする価値の把握では、まず、病気で引っ越した正一からの連絡が途絶えたときの和也(「ぼく」)の思いを問うことにしました。次に、正一の版画作品に自分への思いが込められていることに気づいたときの和也の思いを問いました。この2つの発問から、「悲しい。」「寂しい。」という自分自身の思いが中心になっていたこと、相手がどんな思いでいるか想像できていなかったことに気づかせるのがねらいです。

1つ目の発問で、児童から「連絡が来なくなって悲しい。」「もっと病気が重くなっていることを知ってしまったら、自分自身がつらくて耐えられないから、ある意味手紙が来なくてよかったのかもしれない。」「離れてしまったから、もう忘れられてしまったに違いない。」といった発言がありました。そして、2つ目の発問とその後の補助発問を通して、「連絡がなくても、相手は自分のことを友達だと思ってくれていた。」「相手の事情やどんな思いなのかわかった。」「相手がつらい思いをしているときこそ、応援し続けることが大切。」といった発言がありました。これらの発言から、相手がどんな思いなのかを想像すること、楽しいときだけ

元神奈川県横浜市立
桂小学校校長
本田 正道 先生から

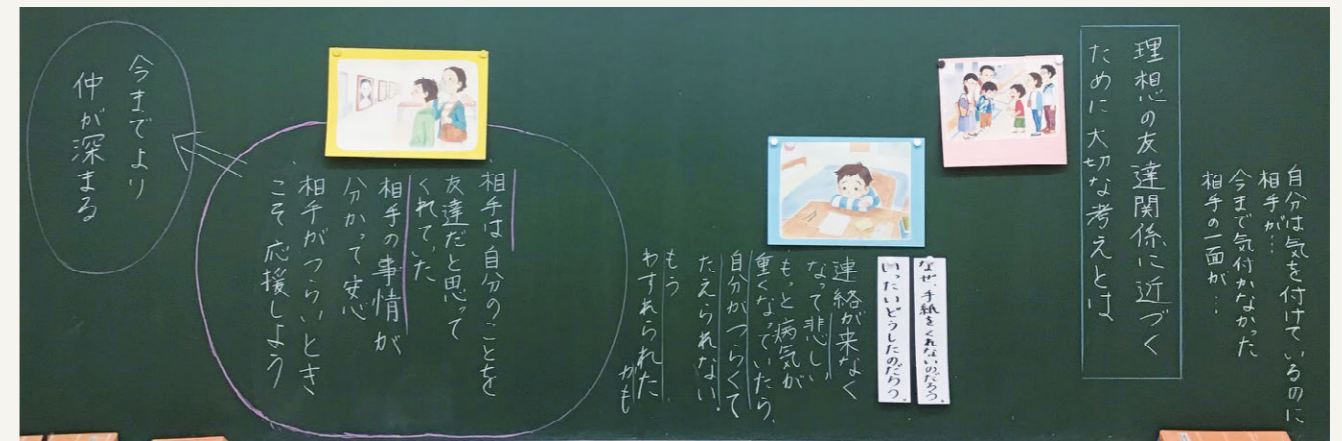


本実践では、児童の思いを大切に、お互いに本音で語り合い、誰もが安心して学び合える学級づくりをめざしています。その特徴は、①教師が、児童一人ひとりの友達に対する問題意識を高めて主体的な学びにしている点 ②自己を見つめ、互いの意見を交流させて、自分の友達に対するこれからの見方・考え方を深めている点です。

①については、特に国語科の学習と関連させ、事前に自分の友達観に対して問題意識をもたせて本時の課題につなげていること、また、学級の仲間全員の友達に対する今の見方をタブレットで共有していることがポイントです。このことが、展開後段の本音で語り合うことの支援となっています。

(p.17へ続く)

	学習活動 (◎中心発問、○基本発問、・予想される児童の反応)	◇指導上の留意点
導入	<p>1 今の自分の見方・考え方を確かめる。</p> <p>○これまで友達との関わり方について考えてきましたが、よりよい関係を築くのが難しいと感じている人が多くいましたね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と考えが食い違うとき、けんかになるぐらいなら自分が我慢しようと思ってしまう。 ・どうせわかってくれないと思って諦めてしまう。 	<p>◇これまでに共有した掲示物や、事前の活動を振り返りながら、友達との関わり方で感じる難しさについて触れ、課題を確認できるようにする。</p>
	<p>2 学習課題を設定する。</p> <p>理想の友達関係に近づくために大切な考えとは</p> <p>3 教材を読み、ねらいとする価値を把握する。</p> <p>○正一との手紙のやり取りがなくなった和也は、正一に対しどんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡が来なくなって悲しい。 ・もう忘れられてしまったのかもしれない。 ・手紙が来なくなったのだから、こちらが手紙を送っても迷惑なだけかも。 <p>◎正一の「友のしょうぞう画」という作品と解説を見て、なぜ和也は涙があふれたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡がなくても自分をずっと友達だと思ってくれていた。 ・相手がどんな思いでいたのかわかってよかった。 ・友達がつらいときこそ、応援し続けよう。 <p>○(補助発問) 一緒に遊べなくなったり、連絡が取れなくなったりしても、本当に友達でい続けられるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互い思い合う気持ちを大切にしなければ友達でいられる。 <p>○うまくいかないことがあっても、互いが思い合って関わっていくと、どんな関係になっていくのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなときでも信頼し合える関係。 	<p>◇この発問では、これまで児童が課題に感じていた部分と同質であることがつかめるように、授業前の取り組みや学習課題設定の前に確かめたことをもとに考えるよう促す。</p> <p>◇前の場面の和也は「自分がどんな気持ちか」に目が向いてしまっていることに対し、正一の作品に向き合うことで、「相手がどんな気持ちでいるか」を想像し、自分ではなく相手の思いに目を向けることの大切さに気づいたことがつかめるようにする。</p> <p>◇価値を実現することで、友達との関わりがどのようによりよくなるかを考えられるようにする。</p>
展開	<p>4 今後の自分に必要な見方・考え方の振り返り</p> <p>○今回の学習を通して、友達とよりよい関係を築いていくために大切だと思ったことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ずっと友達でい続けたいけれど、それが難しいと感じていた。でも、わかり合えたら友達でい続けられるから、何でも話し合えるようになりたい。 ・うまくいかないときに相手のせいばかりしていたと思う。相手がどんな思いでいたのかを考えていきたい。 	<p>◇事前にタブレットでまとめた各自の考えを見返す時間を取り、誰の話を知りたいか決めて移動するよう説明する。また、友達の話を知りたい自分がどのように考えたのかも伝えるよう促す。</p>
	<p>5 実践意欲を高めるために、過去の活動の様子を共有する。</p> <p>※音楽科の三味線体験の授業風景の写真を紹介する。</p>	<p>◇友達との関わりで難しさを感じても、音楽科の授業で互いが向き合いながら活動できていたことに着目できるようにし、今後も相手と向き合おうとする気持ちも育てるようにする。</p>
終末		



でなくつらいときも支え合うことで、相手との仲が深まっていく、とまとめました。

(2) 今後の自分に必要な見方・考え方の振り返り

展開の後段では、今回の学習を通して、理想の友達関係を築いていくために大切だと思ったことは何かを伝え合いました。普段の授業では全体で振り返りを共有することが多いのですが、今回は全体で一人ずつ振り返りを語るよりも、語り合いたい、話を聞きたいと思った仲間と小グループで振り返るほうが、本音で語り合い、受け止め合えるのではないかと考えました。そこで、授業前にタブレットで共有した各自の考えを見返し、その内容をもとに話を聞いてみたいと思った相手に聞きに行くようにしました。

あまり時間が取れず、また、グループで話し合っただけのことを全体で共有できなかったのが残念でしたが、児童は予想以上に事前に友達の考えを読んで、「この人の考えを聞きたい。」という思いで臨んでいました。自然と3～4人の小グループができ、その中で「相手の気持ちを考えて関わられたらもっと仲が深まると思った。」「けんかになってしまったときは、自分の言葉が相手の気持ちを考えていないものだったと思う。」といった発言がありました。グループの話を聞いて、「自分とは考えが違うけれど、そういう考えもいいよね。」「私もそういうことがあるよ。」と、自

分の考えと比べたり重ねたりする姿も見られました。また、相手の気持ちを考えることが大切だと思って行動しても、相手を傷つけてしまった経験があることを話すなど、価値を実現することの難しさを語る児童もいました。

(3) 終末

終末では、今回の授業を行った週に取り組んだ音楽科の三味線体験で撮影した写真を紹介しました。「普段そんなに仲がよくないって言っているけれど、このときのペア活動の様子、いいなと思ったよ。」と伝え、授業を終えました。

④ 終わりに

今回の実践では、正直なところ、ねらいとする価値の把握の場面でいつもよりも発言が少なかったのが反省すべき点です。しかし、友達との関わり方に課題を見いだしたからこそ、真剣に考え、それをなかなか言葉に表すことができなかったといえるのではないかともしました。

今後も各内容項目を自分ごととして捉えられるような授業展開を研究していきたいです。そして、さらに本音で語ろうと思える、自分の考えを受け止めてもらえるという安心感のある学級となるよう努めていきたいと強く感じました。

元神奈川県横浜市立
桂小学校校長
本田 正道 先生から



②については、友達に対するうわべだけの見方・考え方ではなく、より学びを深めるために、展開後段を全体での学習から小グループでの語り合いにしています。5年生という発達段階では、友達関係に関してなかなか本音では語りにくいところがあります。あえて話を聞きたい児童と語り合うことで、これからの友達関係について深く語り合うことができ、発展が見られることと思います。展開後段の時間が短くなってしまいましたが、児童の思いを大切にしたいカリキュラムづくりの工夫も大切です。個の学びと協働(協同)的な学びをうまく取り入れた、優れた実践と考えます。



こんなコト、聞いてみました!

ちょっと聞いてみたいギモンに経験をもとにお答えいただきました。
授業のヒントになったり、励みになったり。
これからの道徳の授業に生かせる何かが見つかるかもしれません。

今回のテーマ

板書のこだわりや工夫を教えてください



見た目にこだわる!
子どもとつくる!

広島大学附属東雲小学校教諭 木村 純也

板書は子どもたちの思考を支える大切な支援の一つです。道徳の板書はノートにとる必要はありませんので、レイアウトの自由度がとても高いです。

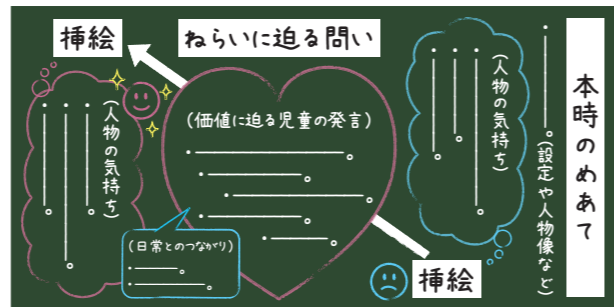
私は板書に「学びの対象」と「学びの姿」を書き分けることを心がけています。「学びの対象」とは、教材文の内容はどのようなものか、考えることは何か、議論するのはどの部分かといったものです。これが曖昧になっていると話し合いがかみ合わず、学びの深まりも期待できません。「学びの姿」とは、子どもたちの発言や反応のことです。まとめをしなくても、一人ひとりの思いが表現され、共感できる部分や異なった考え方があることに気づければ、学びにつながります。

道徳では思考の流れが一方ではなため、板書するときも黒板のあちこちから書き始めます。大切なのは、板書を見て話し合いを振り返ることができるかどうかです。板書計画では、黒板をいくつかに分け、そこに書く大まかな内容を決める程度にとどめます。あとは、授業中に子どもの言葉に耳を傾け、思考を紡ぐつもりで板書します。

このときにポイントとなるのが図案化です。枠、吹き出し、矢印、図形、挿絵、色合いを柔軟に組み合わせ、黒板を一枚のワークシートのように使います。縦書きのときもあれば横書きのときもあります。いや、むしろ混在していることの方が多いでしょう。

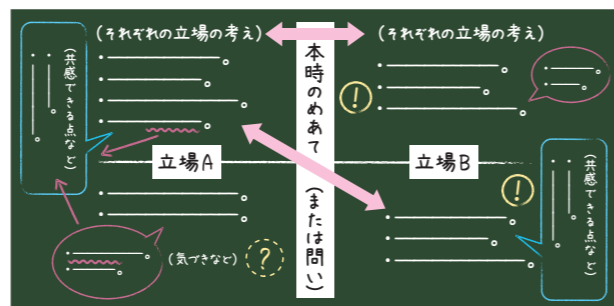
縦書きを基本とするのは、心情の変化に焦点を当てたいときです。何かのきっかけで人物の気持ちが上がる(下がる)ことを、時系列を追うように整理していく際には縦書きを取り入れます。右から左へと学習が進んでいくイメージです。きっかけの前後で挿絵を貼る位置を上下に振り分けることで、心情の変化を捉えやすくすることもできます。このときは子どもの発

言を横書きにして吹き出しで囲み、「学びの対象」と「学びの姿」を意識的に書き分けます(図1)。



(図1)

横書きを基本とするのは、迷いや葛藤などの心情に焦点を当てるときや、複数の立場への理解を促すときが多いです。このような授業では、いくつかの考えを比較したり分類したり関係性を見いだしたりする活動が想定されます。このときは表や図、矢印などを用いることが多いため、横長の黒板には横書きのほうが相性がよいです。めあてをあえて縦書きで示し、黒板を区切る役割をもたせることもあります(図2)。



(図2)

板書する言葉は冗長にならないように気をつけます。意識するのは、発言の文脈を図案化することです。似たものと同じ色で囲んだり、イメージマップのように広げたりします。すると、子どもの発言が生き生きとしたつながりを見せます。たくさんのアイデアを出したいときは、あえて箇条書きで羅列することもあります。

このような心構えで板書と向き合うと、先生は子どもの発言を一生懸命聞くようになり、子どもたちも自分たちの言葉で板書ができあがっていく様子を見て満足感を覚えます。教室の全員が頭フル回転の道徳の時間が生まれます。見た目にこだわって板書計画を立て、子どもと一緒に板書をつくっていきましょう。

地球の仲間からの メッセージ

獣医師、元大阪市天王寺動物園長
長瀬 健二郎



ブラックバックの群れ

群れる

多くの動物が群れをつくって暮らしています。もちろん単独行動の動物もありますが、大まかにいって草食動物では群れをつくるものが多く、肉食動物では単独行動のものが多くといえるでしょう。つまり襲う方は単独で生活し、襲われる方は群れをつくるものが多いということです。それぞれメリットとデメリットがありますが、今回は群れる方のお話をしたいと思います。

襲われる方は一刻も早く襲う動物の接近に気づくことが大事ですが、そのためには眼、鼻、耳という感覚器がたくさんあればあるほど有利です。そして1個体でも気づいて逃げ出せば、それを感じた仲間も続いて逃げることによって互いに身の安全が確保される、といった大きなメリットがあります。また、群れのメンバーが多ければ多いほど襲う方の眼を惑わせ、的を絞らせないという、いわばスケールメリットもあります。魚の大群がまるで1つの大きな個体であるかのように振る舞うことで、襲う側が右往左往する様子を映像などで見た方もいらっしゃるでしょう。



リョコウバトの剥製

かつて北米にリョコウバトという名のハトが生息していました。このハトは渡りをするのですが、その群れの規模がものすごく、群れの先頭が通過し始めてから通過しきるのに三日かかったとか、群れが休息するために止まった木の枝がその重さに耐えきれずに折れたとか、うそのような逸話が残っています。その生息数は数十億羽ともいわれていましたが、不幸にして肉が美味であったためどんどん狩られてしまい、1907年に最後の野生の1羽が撃ち落とされました。動物園で保護するために飼われていた最後の個体も1914年に死亡し、地球上からその姿を消します。天敵である猛禽類から身を守るためには効果的だった群れるという行動も、おいしいものを食べたいという人間の欲の前では無力だったようです。

ただ、多くの個体が集まれば、いさかが増えることも事実です。特に、食べ物や繁殖パートナーをめぐる争いは熾烈なものになります。チンパンジーは果物がたくさん実った木の中から熟れておいしい実を瞬時に見分ける能力に長けているという報告がありますが、これなどモタモタしていると仲間に取り残ってしまうという切実な現実があるからでしょう。メスをめぐって、シカやカモシカが角を突き合わせる映像もご覧になることがあると思いますが、それが死に至るということもままあります。

群れるか否か、なかなか難しい問題です。



文部科学省検定済教科書
中学校道德科用

令和7年度版

中学道德 あすを生きる 1~3年

- 誰一人取り残されない「個別最適な学び」と「協働的な学び」を保障する、別冊『**道德ノート**』が付属しています。
- GIGA スクール時代の学びをサポートできるよう、すぐに授業で使える**教科書 QR コンテンツ**を豊富に用意しました。
- 紙媒体とクラウド配信で提供する**教師用指導書**も充実しています。

▷詳しくは本書 P.6-11 へ



1年「であう」
2年「みつめる」
3年「ひろく」
という各学年テーマに合わせた
中学生の日常風景が
表紙になっています。

日文 Web サイトのご案内

中学校の新版教科書に関する情報のほか、日々の指導に役立つ資料を随時公開予定です。



- 内容解説動画
- 教科書のポイント
- 教科書 QRコンテンツ
- デジタル教科書
- 教師用指導書
- 資料ダウンロード

(内容解説資料、編修趣意書、年間指導計画案、各教科等との関連表、機関誌「どうとくのひろば」) ほか



どうとくのひろば

読者アンケートにご協力ください!



よりよい広報資料をお届けするため、先生のご感想、ご意見を左の二次元コードからぜひお聞かせください!

どうとくのひろば No. 37

日文教育資料 [道德]
令和6年(2024年)4月30日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33712

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690